

ふくよかなチェロの響きがリナス・フアベル／ストラディヴァリ・オマージュから流れてきた時、私は椅子から身を乗り出さずにはいられなかった。その旋律を耳だけでなく、五臓、否、自分のすべての感覚を研ぎ澄まして受け止めねばならないという衝動に駆られたからだ。

「エルガー…チェロ協奏曲／ナタリー・クライン」。
クラインの指先から紡ぎ出されるそのメロディは、官能的でありながら、憂愁をたゞり含み、哀切にむせび泣くようで、胸に迫ってきた。

聴くばく、悲しく、それでいて眩しい煌めきを放つその再生音は、ストラディヴァリ・オマージュだからこそその再現なのか。必ずしもそれだけではないことを、私は十分にわかっていた。

ストラディヴァリ・オマージュが唯一無二の素晴らしいスピーカーであることはもちろん認識している。しかし、その名機からここまでスケール感豊かな響きを引き出しているのは、ソウリューションのセパレートアンプを抜きには話れない。

次に来たものに ベギタタるもの

On

ソリューション

ソウリューションがもたらす
エモーショナルな感嘆!

エルガーの子エロ協奏曲は、英国生まれのこの作曲家の代表曲で、ジャクリーヌ・デュ・プレ/ジョン・バルビローリ指揮の65年の演奏が今や伝説といってもいい定番中の定番。しかし、ここでのクライソの演奏は、最新録音ということも相まって、明晰かつ濃厚で、濃密な彩りをイメージさせる。第二楽章の駆け上がるようなメロディーラインは実にダイナミックだし、第三楽章では慈しむようなムードを醸し出しながらも、決して情緒的に流されない毅然とした力強さを感じる演奏だ。それでいて第四楽章は優しく包み込むようなある種の母性を思わせる。いま肩の部屋の空気が、音楽がもたらしてくれた慈愛で満ち溢れるようである。

私は再生音楽からこれほどの包容力を感じとったことはない。いまは口、目を瞑って音楽に身体を預ける心地よさを堪能している。心は昂ぶっているが、温かい充足感でゆっくりと満たされていくのがわかる。

瞑想的なムードと、たっぷりとした哀愁を含んだ部分とが巧みに織り込まれたこの楽曲を、ナタリー・クラインはひじょうに丁寧に、なおかつ表情豊かに演奏している。エルガーならではのゆるやかな緩急を深く彫り下げ、展開は実にドラマティックだ。

おそらくクラインは、自分の中に湧き出る感情の起伏を指先や腕だけでなく全身で表現しているのだと思うが、ソウリューションは伝送された電気信号というエレメントの中から、彼女の意志や



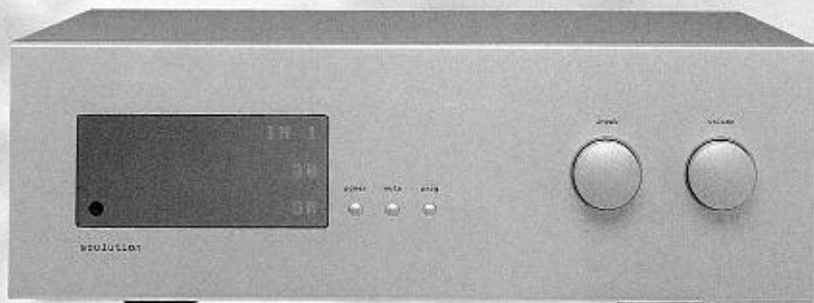
気迫さえも掬い出している。

ストラディヴァリ・オマールジュが、かつて経験したことのないような肉厚で雄大なコンチエルトを奏でているのは、おそらくは、これまでの幾多のアルバムでは掬い出すことができなかったであろうスピリチュアルな要素が、ソウリユーシオンによって初めてストラディヴァリ・オマールジュに注ぎ込まれたことによるものなのだろう。それが私の中にエモーショナルな感嘆をもたらしたに違いない。クラインの内に宿る炎を引き出したソウリユーシオンとは、いったい何者なのだ！

体温や血流までも 感じさせる表現力

アナログレコード演奏も自分のオーディオ生活の中において重要な位置を占めるだけに、ソウリユーシオンのプリアンプ720の内蔵フォノイコライザーアンプの完成度がひじょうに気になっていたのだが、それはまったく以て舌の打ち所のない素晴らしいものとなかった。

米クラシック・レコーズがリマスターリングを手付け、2009の重量盤でリリースしたサラ・マクラクランの「アフタークロー」は、大好きなヴォーカルアルバムだ。繊細かつ透明で美しい声の持ち主であるサラの歌唱を、ソウリユーシオンは実にスムーズに表わした。サラの歌声にはある種の癒しの作用があるとよく言われるが、まさしくそれが再認識できた演奏だ。聴く度に味わい深くなるアルバムであると常々感じていたが、ソウリユーシオンで聴いて改めて感じ入ったのは、サラの声に内在する郷愁感である。



Soulution Preamplifier

720 (フォノイコライザーアンプ内蔵) ¥1,100,000

721 (Lineアンプ) ¥3,500,000

- 入力インピーダンス: 2kΩ (バランス)、47kΩ (アンバランス)、1kΩ/100Ω (フォノMC)
- アナログ入力: バランス2系統、アンバランス3系統 ●アナログ出力: バランス1系統、アンバランス1系統
- 寸法/重量: W480×H167×D450mm/30kg

2004年リリースのこのアルバムは、前作からの7年間に結婚、出産、そして最愛の母の死という人生最大の出来事を立て続けに経験して生まれた、おそらく彼女の死生観が色濃く反映された作品といえる。そうした背景が少なからず影響しているだろうことは、母としての強さ、人間としての孤独感をも感じさせる詞やメロディーからもわかる。彼女の人生が刻み込まれているかのよう

に感じられるのである。

そうした質感を解きほぐすように再生するソウリユーシオンの表現は、単にアナログ特有の温かみとがまろやかさといった次元で片付けられるものではない。もっとフィジカルな体温や生々しい血流を感じさせるものだ。ソウリユーシオン720に内蔵されているフォノイコライザーアンプは、決して小手先の技術でつくられたのではない。そこまでの表現力を意図してのものなのだ。

720の負荷インピーダンスの設定は、背面パネ



Soulution Power Amplifier

710 ¥5,200,000

- 出力: 120W+120W (8Ω)、240W+240W (4Ω)、480W+480W (2Ω)
- インピーダンス: 4.7kΩ (バランス)、10kΩ (アンバランス)
- 寸法/重量: W480×H280×D535mm/80kg
- 端子: バランス入力HOT-2番ピン